

# 2023年度 法科大学院

## 第5期入学試験問題

### 3 時限

### 刑法

### (論文式)

## 試験時間 50 分

#### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

## [刑法]

次の事例における甲及び乙の罪責について論じなさい。

### 事例

- 1 甲及び乙はX会社に勤務していたが、上司であるAを疎ましく思っていた。令和4年12月初め、甲及び乙は、Aに毒入りワインをプレゼントすることを計画し、甲がワインを製造し、乙がA宅に届けるという役割分担をした。甲及び乙は、毒の量としては、ひどい下痢を起こす程度にしようと話していた。ところが、甲は、Aから、「お前は人間のクズだ」と罵倒されたのを思い出し、ワインに致死量の毒を入れたが、そのことは乙には黙っていた。甲が、ワインに入れた毒は、1時間は普通に行動できるが、1時間後から毒素が一気に身体に周り、30分程度で心臓麻痺で死に至るというものであった。
- 2 乙は、自分でAの自宅にワインを届けるつもりであったが、自分が持って行くと、自分に疑いが掛かると思った。そこで、令和4年12月5日、乙は、事情を知らないX会社の同僚である丙に対し、「明日6日の晩、上司であるA宅に、甲、乙及び丙からのお歳暮として、ワインを届けてほしい。」と依頼し、丙はこれを引き受けた。
- 3 12月6日午後7時頃、丙は、自動車を運転して、Aの自宅にワインを届けたところ、自宅にはAとその妻Bがいた（なお、甲及び乙は、Aが独身であると思っており、妻Bがいることは知らなかった）。丙は、Aに対し、「乙からのお歳暮として、ワインを持って来ました。」と告げたところ、Aから「ちょうど今食事中だから、一緒に食事をして行きなさい。」と言われた。そこで、丙は、A宅に上がって、一緒に食事をすることにした。
- 4 A宅では、Aと妻Bが夕食にステーキを食べており、Aは、「折角だから、頂いたワインを妻Bと一緒に飲むよ。」と言い、Aは午後7時頃から、Bは午後7時30分頃からワインを飲み始めた。丙は、車の運転があるので、ワインを飲まず、食事だけをした。
- 5 午後8時頃、Aが突然苦しみ始めた。その様子を見た妻Bは丙に対し、「近くに行きつけの病院があるので、帰りがけに車で連れて行って下さい。」と頼んだ。丙は、乙に電話をしたが出ないので、甲に電話をして、Aの様子を告げた。甲は、丙がA宅にワインを持って行ったことに驚いたが、ワインに致死量の毒を入れたことは話さず、「至急、Aを病院に連れて行ってくれ。」と告げた。そこで、丙が車でAを病院に連れて行ったところ、応急処置の結果、Aは重い食中毒を起こしただけで、一命を取り止めた。一方、A宅にいた妻Bは、午後9時頃、毒入りワインによる心臓麻痺で死亡してしまった。

以上